

今回は自由意見のご報告です。昨年度、本調査は2学期末に計画しておりましたが、コロナにより全160名以上の実地教育(教育実習)、カーニバルや修学旅行、林間学校が全て2学期となり3学期実施となりました。蔓延防止や緊急事態宣言が長く何度も出たため、学校のことを知らせる機会が少なく悩みましたが、できる限り開かれた附属小学校を目指して、あえて実施いたしました。多くの感謝のお言葉や様々な厳しいご提言も頂きましたが、今回初めてという事で、主として批判的なご意見を掲載し、教職員一同しっかり受け止めています。個人が特定できるもの等は表現を改め、全てではありませんが、生の声をご紹介します。本年度も内容は改善し2学期末に実施予定です。

1 学習指導について(保護者のご意見)

オンラインで授業を拝見したが、魅力ある授業内容とそうではない授業が見受けられた(教員の教科専門知識の不足)。基礎学力の向上に努めてほしい。意見交換も良いが正しい知識を指導してほしい。宿題が少ないように感じる。10年後15年後に役立つ学習も必要だが、塾に通わずに中学校高校に入学できる授業をしてほしい。普段から宿題や家庭学習の課題が少ない。特に理科や社会は授業を受けているのかわからない1年だった。附属中も入試内容が厳しくなり、算数も単位のある単元にも力を入れてほしい。ICT活用になり、子供達は他の子の頑張りや考え方を身近に感じられ、互いに刺激し合って学習していると感じることが多かった。一方で、出来上がったものを活用する力はあるが、何も無いところから何かを生み出す力はまだまだ未熟だとも思う。漢字ドリルや計算ドリルをやらせてほしい。もう少し宿題を多くしても良いと思う。自主性に任せるにはまだ低学年には難しいと思う。子どもたちの自主性を尊重するとよく聞く。自主性を尊重することが、家庭学習を課さないことなのか。自主性を尊重するという言葉を学校側が都合よく解釈しているのではないかとの疑念がわく。同じ学年でも、家庭学習の課し方にクラスで差がある。担任教員の当たり外れが大きな学校であると感じている。宿題の量もクラスによってバラツキがあった。やはり根底にあるのは、人間性だと強く痛感する。未来に適應できる人間性を無理矢理作り出すのではなく、基本的な人間性は、挨拶や、道徳的な事、基本的な情操教育がなされて、自然と身につくものではないかと思う。そのような事にもしっかり取り組んでもらえる学校であってほしいと願う。

2 教員の指導について(保護者の意見)

授業中先生の言う事を聞かない児童に厳しく指導してほしい。騒がしい時にはもう少し厳しく叱ってほしい。暴走する生徒の担任は、抑える力量のある教員にしてほしい。暴走する生徒を、力量ある担任のもとにクラス編成を願いたい。休んだ時に担任からの連絡があまりなかった。子ども一人ひとりにもっとコミュニケーションを取るよう努めてほしい。トラブル時の対処の仕方によって雲泥の差があったので先生方のスキルの底上げを図ってほしい。怒る時は怒る、大変な事だが、勉強だけではない成長段階の子供達なので悪い事したら怒って欲しい。殴り合ったりケンカしている子を怒らない、理由を聞かない、ダメな事はダメと言ってももらえないとなると、乱れる子は一層エスカレートする。規範意識を育てる取組を家庭と学校で協力して行えたらと思う。先生の見えないところでいじめがある。「見ました」のハンコくらい欲しいよな〜と言っている日もあるくらい、やる気に左右する。担任配付のプリントが日付遅れのものが多いことで信頼を失う。自然学校の案内が不十分で、保護者からの指摘が多かった。不適切な言動の教員がいる。児童に注意をする際、べらんめえ調だと聞き大変驚いた。情報発信の方法を改善し、保護者が学校に行けない分、学校での活動報告をまめにwebやメールで発信するなどしてほしい。クラスだよりが最初だけで途中で消えた。先生からのなまるや一言がやる気に繋がる。校門に教員が誰一人いない。担任によって全く違う。担任でクラスの状態や学習意欲が変わる。学級通信が少ないのでクラスの様子が分からない。学校行事のお知らせや変更の連絡が遅くて困る。通知表かがやきの1、2学期の所見が無くなったのはとても残念。学級だよりは学年が上がるにつれてなくなった。今年度は学級通信がなく子どもの様子がわからなかった。ハイブリッド授業は先生にも負担はかけますが、ありがたい。ただ、つながるのが遅かったり期待していたのにズーム授業が無かったりした時もあった。全員の先生ができるよう指導してほしい。

3 児童の様子について(保護者の意見)

旗当番であいさつしてくれる子供が少ない。公共交通機関や門のすぐ外でスマホを使いながら通話しながら歩いている。大変マナーが悪い。バスでは相変わらず、ランドセルで座席を占領し低学年が長時間立っている。奥にも詰めないで乗り込めない時もある。附属に通わせている親として外で見て恥ずかしい光景である。駐車場でスマホを使う光景もとてもひどい。中学生よりも低学年の方が特にひどく早急に対応してもらいたい。最近の附属は乱れていると思う。それは、自分の子が制帽を被ったり被らなかつたりしている一面からだ。「今日は被りにくい髪型だから」など理由を言い返して朝から駐車場で一悶着、「服装の乱れは心の乱れ」、制帽は附属小の証である話を説明するが、何度言っ

ても被らない。なぜなら被っていない子が沢山居るから。入学した1年生の頃はすれ違う先生が「帽子はどうした!」と喝を入れられていた。

〇 校長から

長い自治体教育の経験から、皆様のご意見・提言は納得できる点が多くあります。教員の入れ替わりもあり、十分ではありませんが、皆様のご意見を踏まえ、今年度、以下の点について教職員一同共通理解に努めて取り組んでいます。

① マナーや時間を守る等の規範意識の指導重視(他律から自律へ)

今年から8:30始業、4:00完全下校のチャイムを鳴らし時間を守る指導を強化しています。4月初めの職員会議で規範意識の指導について全教員が共通理解を図り、確かに昨年より子どもの方から挨拶をしてくれることが増えました。また、皆様のご協力を得るために、4月に制帽を被って登校することや名札着用、公共交通機関のルールやマナーを守ることなどのご依頼を発出するとともに、学校でも、今後とも折に触れて、心がけて指導してまいりますので、是非ご協力お願いします。今後、例えば時間を守ることができないようなら、8時30分で遅刻と判断することや、チャイムを鳴らす回数増も検討してまいります。

② 見えない学力の育成を踏まえ見える学力も向上へ(取組成果を意識する)

見えない学力が育ち、学ぶ意欲がはぐくまれれば当然成績も上がります。今年度は受験者が全国的に多い東京書籍の学力テストを導入し第1回を6月8日実施しました。7月の懇談会で個人票をお渡しします。これは教員が自らの指導方法を振り返るものでもあり、子どもが各教科を好きになるよう指導すること、第2回目12月15日(予定)までに教員が自らの授業改善やご家庭の協力によりどのように見える学力が伸びたかについても測る一つの資料となります。

③ 学校・学年全体の指導の統一性について

全国的に教員不足の状況です。結果、学校としても至らぬ点が大変多く、満足な状況だったとは思いません。が、学年教員団は管理職と連携し臨時講師も含めてそれぞれが本当に精一杯努力し、神経もすり減らしつつ子どもの指導に努めたことだけのご理解いただきたいと思えます。昨年度中に新たな府県と協定を結び交流教員の増加を図り、今年度は全担任が正教員となっています。質の良い教員確保は全国の附属学校体制の深刻な課題となっています。

4 タブレットの活用について(保護者の意見)

授業時間の自習や放課後もタブレットを自由に使わせている。もう少し管理をきちんとしてほしい。ドリルを廃止してすらドリルを導入したが10月に廃止した結末はお粗末、大失態だ。タブレットでユーチューブや遊んでいるのは問題だ。タブレットは授業だけにしてほしい。ICTにはどんどん前向きに取り組んでほしい。すららドリルは中止したが、縮こまることなくチャレンジするのは附属の役割だ。iPadの容量が小さく学校生活の記録として写真や動画をもっと見ることができるようプラス料金を払っても良いので選択できるようにしてほしい。毎日iPadを持ち帰り、ゲームのアプリがたくさんあり長時間するので、曜日を決めて持ち帰るなど工夫してほしい。iPadを使った授業や活動は素晴らしく対応もとても早くなった。今年1年で子どもたちも私たち保護者にも役立つものとなって(特に学級閉鎖中)しっかりと基盤ができた。タブレットによる連絡帳は保護者が把握しにくい。低学年では毎日持ち帰るのは重くて、体力的にも大変で、目が疲れると子供は言っている。毎日使用することが必要なか疑問である。使用時間に関して、学校として一律に制限を設けることを考えていないか。確かに、家庭として一定のルールを決めていたとしても、友だちとの関係で連絡を取り合ってしまったら、正直なところ見受けられた。一定の時間を設定いただけると、見えないところでの不安が、軽減されるのではないか。すらら断念までの半年間、子どもたちはiPadの魅力に踊らされ、基礎基本を体得するための家庭学習を与えられず、当初からドリル学習を導入していた小学校の子どもたちからは基礎学力の面で水をあげられた。教員はドリル学習による膨大なノートチェックからは解放されただろうが、教員が楽をして、子どもたちが苦勞する結果となった。こんなことがあってよいのか。教育大学附属校の実態はこんなものなのか。大いに失望した。先進的な教育課題も、発展的な教育課題も、基礎を飛び越えては成り立たない。GIGAスクール構想の下、タブレットを与えて頂き有り難く思うが、それと並行して人間力を高める教育を学校側からすすめて頂ければ幸いである。タブレットを持って帰ってきてもアプリやネットをして、時間を守らない。タブレットの使う頻度が多過ぎた。字を書ける前提、そのあとのタブレットや機器では無いか。持ち帰りや、宿題の出し方を考えて欲しい。学校学習以外のYouTubeなどは見れないようにして下さい。授業中みている子どももいると聞く。帰宅後もずっとタブレットで遊んでいる。

〇 校長から

先月以来、中教審部会長本学加治佐学長をはじめ、国立教育政策研究所白水総括研究官、上智大学奈須先生、教育環境研究所長澤所長のお話を間近に聞く機会がありました。皆さん日本の教育の第一人者ばかりですが、簡単に言えば今や目が悪くなるからタブレットはやめようという時代ではないということでした。当然弊害はある。それを乗り越えしっかり活用できる能力を子どもにいか

得させるかという事が重要になっています。スマホについても初めはスマホは持たせないという方針から、欠点はあるけれどもそれを、ご家庭で約束をしたり学校で指導したりして、より良く便利に使う方向で持たせるご家庭が増えているのではないのでしょうか。今年はトモリンクス試行で保護者連絡もスムーズになりつつあると聞いています。今回の保護者のご意見も学校で規制管理を強化して欲しいというご意見と積極的使用をという意見とに大きく分かれています。AIドリルについても、昨年は「すららドリル」を導入しましたが、今年度は中学校とそろえ、よりAIの質が高い「Qubenaドリル」を試行実施しています。学校としては学年段階に配慮することや、より良く使う方法を研究・検討しなければなりません。子どもの中には学年段階を超えて中学校レベルの理科をドリルでどんどん進んでいる子どももいます。時間のかかる子どもも伸びる子どももどちらも伸ばす対応が必要です。このような取組をすることは決して教員が楽をするためではなく、検討してより良いものを常に求めるという作業が必要で、余計に多忙さが増しています。これは附属学校としての任務です。6月15日全校で休み時間のタブレットの使い方についての指導を、DX教育推進部の中野先生を中心に行いました。さらに夏休みまでに「新版兵庫教育大学GIGAスクール学習用端末活用ガイド」、活用ルール夏休み編、夏休み中の故障対処法今年度版を出す予定で現在検閲中です。それらを踏まえて学校もご家庭も子どもに対する指導力が問われていると思います。

5 学校のコロナ対応について（保護者の意見）

感染者が出た学級の担任も休ませてほしい。春の遠足や、音楽会など行事が少なすぎる。マスクの強制をやめてほしい。感染者が出た時の連絡が少し遅い。平均寿命を超えた人しか亡くならないのだから、いい加減感染対策と行事や科目の縮小をやめてほしい。世間の空気や雰囲気によって対策が決まるなら学問も研究も意味がない。コロナ禍だからこそお互いコミュニケーションの方法を工夫してほしい。もっと学校のことを教えてほしい。コロナウィルス流行語後は学校の中が見えにくく閉塞感がある。コロナによる全校休校の際、地元の公立では全校生徒に宿題をポストインし、窓越しに担任の先生と手を振り気持ちを安定させた、羨ましいと思った。もちろん附属は多方面からなので軒一軒回れないが、寄り添う気持ちが大事だ。コロナで学校に行けない分、お便りだけでもクラスの雰囲気を伝えていただき、先生との信頼関係も築きたかった。

○ 校長から

2年前、全国一斉休校となった当時の様々な対応の不備については、私の赴任前で、把握しきれてない部分もあり大変申し訳ありません。全国の自治体で様々な対応が模索されました。昨年度、私が校長となり国や兵庫県が示す科学的な根拠・基準に従いつつ、学校の学びを止めないように、PTA活動も再開し保護者の皆様に可能な限り学校をオープンにすることに努めてきたつもりです。しかし、現在も十分満足いただける対応とは言えません。今後も安全・安心に十分配慮しつつ、できるだけ学校行事も進めていきたいと思っております。なお、附属学校におけるコロナ対応は、学長をトップに医師や様々な専門家で構成された大学のコロナ対策本部会議で、ほとんど毎日検討されて進める体制となっています。また、学校としては学校日より学年日より必ず出しますが、学級日より、必須としておりません。今、できるだけ日常の様子もお知らせするようHPの改善中です。ペーパーレスによる情報発信の改善を目指しています。

6 学校行事について（保護者の意見）

今年度はフェスティバル中止の案内があったのか？気付かずいつの間にか5年生が終了してしまった気分になった。クラブ活動再開をととても心待ちにしていたのに中止の連絡が遅すぎる。音楽発表も中止の連絡がなく、子どもに聞くとグループで行い手拍子担当になったらいい。以前のように（公立のように）コンサートを再開して欲しい。人間の思い通りにはいかない自然に立ち向かう機会が沢山ある附属を素晴らしいと思い、我が子に経験させたいと強く思い入学させたので、突然の臨海学習廃止にはびっくりした。その為にスイミングに通わせていた子も沢山あるようで、とても残念。せめてその行事を知っている学年までは復活させて欲しい。臨海合宿が急に無くなった。このような決断はコロナ後でもよかったのではないかな。

○ 校長から

変更の連絡が遅すぎる等ご指摘については大変申し訳ないと思っております。新型コロナをきっかけとして全国の学校でこれまで行われてきた行事の在り方が検討されています。しかし臨海合宿の廃止については、私は赴任した際に新型コロナのため附属小学校が廃止決定したのではなく、大学として既に決定していたと聞いていたので、改めて今回副学長にその理由を確認したところ、危険性を一番に挙げられました。確かに長年実施してきた重要な取組でしたので残念なお気持ちは理解できます。本校の任務として新たな課題、未来デザインをさらに発展させ、STEAM教育の充実が求められております。「伝統は革新の連続」という言葉もあります。本校が十分できているとは言えませんが、先人の築き上げてきたものを形だけ引き継ぐことなく、常に創造し続けることが重要だと考えてい

ます。この社会の激変期には入学時の行事が必ずしも卒業まで続くとは限らないことをご了解いただけたらありがたいです。

7 学校の体制・教員等について

教職員の転出入が激しすぎるので、教員の能力向上、カルチャーの継承ができていない。三年で転出される為、先生方の引き継ぎが出来ていない事がよくわかった。三年で転出制度をなくして欲しい。教員の転勤が激しすぎる。これでは特色ある教育文化の継承、教育研究が不可能である。県教委の人事から外れる努力が必要だ。短期的な異動ばかりではなく、長期的に附属小にいる先生もいてほしいと思います。先生が変わりすぎている。二年、三年という短期間で教員を異動させると、生徒の心も落ち着かず、また何より教員の専門知識の向上や研究内容が深まらないのではないかと危惧する。附属小学校の良いカルチャーが引き継がれない。特別支援教育の面でも大学と連携してインクルーシブ教育に取り組むことで多様な子供たちに適切な学びを提供できるのではないかな。フォームでの欠席連絡は便利になったが担任との話をする機会が減り、欠席後の連絡が無く時間割が分からず全教科を持っていくことを繰り返した。今年度は多様性を理解する講演会があった。こういうテーマを取り入れられたことを機に、性の多様性だけでなく、障害のある子どもの受け入れなども前向きに考えていただきたい。また、教科担任制になってから、子どもの体調が悪くても気付いて貰えない。子どもの判断で保健室に行った事も担任は知らない。また、いじめや、不安定な気持ちになった時に気付けない。

○ 校長から

確かに短い期間しか在籍できないという点は学校運営を困難にしています。しかし今、全国の附属学校も含め、深刻な教員不足で担任教員が揃わない学校もあると報道されています。先月全国附属学校会議で英語教員がどこかに居ませんかと言った校長先生もいました。ブラックと言われる教員の中で、普通に学級・学校運営をして、その上多数の教育実習生を指導し、新しい研究をし、教科の研究・研究発表大会も毎年したいという教員は多くありません。長年地元に戻らず還元もしなければ、自治体は附属学校に教員は派遣しなくなります。原則3年で必ず元の自治体に戻って頂くという約束で、新しい経験で少しでも力量を養い、地元で教員として活躍してくれることが重要です。特別支援教育でも大学と連携していますが十分とは言えません。数年前特別支援学級設置申請は国に認可されませんでした。説明会でもこの3年間ははっきりとお伝えしておりますが、受け入れた以上は自立に向けた成長を保障できることが重要です。しかしその体制は十分ではありません。私には小1に普通学級と特別支援学校1年生の孫がいる当事者です。状況によりますが私はできるだけ早い段階で、その特性に合った環境で適切な指導を受けさせることが、将来子どもの自立につながる可能性が高いと確信しています。

8 その他（保護者の意見）

① 保護者のマナーについて

年々保護者のマナーが低下している。特に駐車場のマナーが悪い。保護者の駐車場のマナーが悪い。駐車場で直接指導してほしい。久しぶりに公開したカーニバルでの保護者のマナーも悪かった。徐々に保護者も参加出来たカーニバルでもマナーの悪い方が沢山居た。駐車場のマナーばかり、コロナ禍とは関係なく、附属の良さである自由が好き勝手している状態になっている心配がある。

② その他

最近給食がおいしくなくなった。幼稚園の給食が始まってから今までになかったメニューが増え味が落ちた。子どもが学校に行きたくないと学校を休んでいる。その子らしさを少しでも認められ居場所を見つけられたらと、今の学校の制度では先生も子供も苦しい。写真をもっと買えるようにしてほしい。マイクロバスを出して欲しい。クラスで使うボールやテントのお金は国から出して欲しい。アフタースクールの決定について附属学校事務室の対応が遅い。緊急連絡先がメールしかないが、事故や事件等の時もメールしかないというのは何かあった時に学校と連絡が取れるのかわからず不安、PTA活動を廃止している公立校もある。見直しをしてほしい。一人親家庭なので旗当番がきつい。

○ 校長から

その他については特にコメントをしません、受け止めて関係者と共有し必要に応じて改善に努めます。また、保護者のマナー向上につきましては附属学校の保護者であるという自覚のもと、子どもの手本となるようよろしくお願い致します。（これは教職員も同様に心がけなければなりません）

給食については栄養教諭に確認したところ、味覚の幅を広げるため、以前は避けていた調味方法（酢の物・お浸し等）や苦手意識の高い食材もあえて使用した献立を採用しているとのことでした。

※全体として十分なお説明とはなっていないと思いますが、何か疑問点があれば遠慮なく校長までお問い合わせください。今後ともご理解とご協力のほどよろしくお願い致します。ご回答が大変遅くなり申し訳ありませんでした。